

〔研究ノート〕

江戸時代後期の安珍清姫物語絵巻

大和文華館には、江戸時代後期の、正統な絵画の修練をうけたとは思えない絵師が、気負いもなく、さらさらと描いた「道成寺縁起絵巻」〔図1〕があります。

ごわごわとした、長さの不揃いな紙をつないで、墨とわずかな色で描かれています。旅人や道成寺僧の、ひょうきんな表情は戯画といってもよく、きつと、長い間、たくさんの人たちに楽しまれてきた絵巻でしょう。

僧と女の物語の原形は11世紀前半の『本朝法華験記』巻下第129話「紀伊国牟婁郡悪女語」とされ、それがさらに『今昔物語』巻第14「紀伊国道成寺僧、写法華教蛇語」や14世紀の『元亨釈書』巻19にも継承されています。そして、絵画化されるだけでなく、能、風流踊りなど中世芸能のテーマとなり、江戸時代には人形浄瑠璃や歌舞伎でも演じられ、安珍清姫の物語として親しまれました。

安珍清姫の物語といいましたが、じつは、主役である僧と女の名前は長い間伏せて語られてきました。僧が安珍と呼ばれるのは『元亨釈書』が最初とされ、清姫の名が出てくるのは1742年初演の人形浄瑠璃「道成寺現在蛇鱗」まで待たねばなりません。

この物語の絵画化がいつ始まったのかは判然としませんが、「道成寺縁

起絵巻」と呼ばれる絵巻は数多く、道成寺で絵解きされていた重要文化財指定の二巻本（室町時代後期の制作）をはじめ、複数の系統のものがあり、それぞれ多数の写本が作られています。当館の絵巻に近い江戸時代後期のものとして、国際日本文化研究センター所蔵の「道成寺縁起」（全一巻）のほか、2017年に和歌山県立博物館で開催された展覧会に出陳され、図録『道成寺と日高川 道成寺縁起と流域の宗教文化』に図版が収録される江戸時代末の作例（道成寺蔵 作品番号86）および、それと全く同系の国際日本文化研究センター所蔵の三巻本の「道成寺縁起」があります。

清姫を寡婦や人妻とするのではなく、幼少の頃から僧に親しみ妻となることを信じていた娘とすること、そして、物語ゆかりの場所（現代のアニメファンならば、さしずめ「聖地」と呼ぶような場所）や熊野古道の名所を描くことに熱心なのが共通する特徴です。清姫が黒い太い帯を締めるなど江戸時代後期の風俗で描かれていることも共通します。ただし、後二者には、当館の絵巻にはない、道成寺創建譚が付け加えられています。

ちなみに、清姫をいたたいけいな娘と設定することは、室町時代に作られた能「鐘巻」や「道成寺」、そしてそこから

派生した風流踊り「鐘巻」の詞章と共通し、そのルーツは確実に15世紀にまで遡ります。

また、当館の絵巻に描かれる聖地や名所は、清姫が休んだ「腰掛石」、草履を脱ぎ捨てた場所を示す「草履塚」などのほか、塩屋浦、八幡山入海掛橋があります。そのうち、当館の絵巻をはじめ、江戸時代後期の絵巻がそろって「草履塚」〔図2〕と刻まれた堂々たる石碑の図を入れるのも面白いところです。過去の物語の場面と、それを後世に顕彰して建てられた碑と一緒に描く無頓着さは、日本の物語絵画では珍しくありませんが、現代の私たちには少し奇異に感じられます。

道成寺縁起については、説話研究や芸能史研究の領域でも多くの研究が重ねられており、その方面から教えられることも多々あります。

たとえば、当館の絵巻では、ほかの絵巻とはちがいが、清姫が大蛇となって渡る川を、画中詞では「日高川」としながら、詞書では「天田川」と呼んでいます。これはどうしてだろうと調べてみると、芸能史研究者の山路興三氏の論文によって、和歌山県九度山上古沢に伝わる「鐘巻踊」の歌詞では、清姫が「あまだの川」を渡ると歌っていることを教えられました。そして、説話研究者の林雅彦氏の論文に引用されている、1800年代初めの『金谷上人一代記』には、画家にして僧侶だった横井金谷（1761～1832）が道成寺参詣の折、日高川を船で渡ったことを記すくだりに、

「天田川船渡し。是古の日高川なり」とあります。そこで、『日本歴史地名大系31和歌山県の地名』にあたると、たしかに江戸時代には、日高川河口に天田村があり、その渡船場を天田の渡し、そしてそのあたりの日高川を天田川と呼んでいたことがわかります。

当館の絵巻で、天田川と日高川とが併用されるのは、おそらくこの詞書を執筆した人のとまどいを示すものでしょう。今は天田川と呼ばれているけれど、大蛇に変身した清姫が渡るのはやっぱり日高川でなくてはさまにならない、というような迷いがあったのでしょうか。

安珍清姫の物語は、江戸時代には「此の物語は三歳の童子もよく知るところ」といわれるまで人口に膾炙しました。どうして、この物語がそこまで人々の心をとらえたのか、あらためて考えると、そのこと自体が不思議です。

（泉万里）

参考文献

和歌山県立博物館編刊『道成寺と日高川 道成寺縁起と流域の宗教文化』2017年（図2はこの図録から複写しました）

山路興三「芸能史における『道成寺』」『芸能史研究』224号（特集・芸能史における「道成寺」） 2019年
林雅彦「道成寺説話の展開 男と女のお姫物語」『絵解きと伝承そして文学 林雅彦教授古稀・退職記念論文集』方丈堂出版 2016年



図1 道成寺縁起絵巻（大和文華館蔵）



図2 道成寺縁起絵巻（道成寺蔵）